

避難者の方へ届け この光

中 三

私はある日、新聞の「原発事故避難先でいじめ」という大きな見出しに思わず目を留めた。その言葉にショックを受け、記事を読み進めてみた。それと共に「なぜいじめが。」と疑問ばかりが頭を駆け巡り、さらに深く知りたいと思い、インターネットで調べてみた。「東北」「被災」……様々な言葉を追いながら、私の記憶はいつの間にか小学校三年生のときに戻っていた。そのときの二人の転校生との出会い。今思えばこの出会いこそが、私の記憶をよみがえらせたのかもしれない。その転校生は福島原発事故から避難してきた兄弟だった。私は転校生に話しかけてみたり、遊びに誘ってみたり……。とにかく仲よくなりたくて、その一心だった。

いた。一緒に笑い、一緒に騒ぎ、いつも笑顔いっぱい。の表情だった二人から、突然聞いた一言。「本当は自分の家に帰りたい。」

実際に本音を聞いた私にとって忘れられない言葉だった。あのときの私は「慣れない環境で両親や友達と離れ離れになり、寂しい思いをしてかわいそう。」そんな安易な考えしかなかった。今思えば、「もつと助けてあげればよかった。力になればよかった。」と、後悔ばかりが募ってくる。今でもこの感情は私の中に残っている。それなのに「今、なぜいじめが。」と、ふと今の自分に戻り、再びその問題に直面したのである。

そこで、最も衝撃的だったのが、いじめや差別を受けた人の割合だ。それは、「ある」と答えた人が全体の六十二パーセントを占めていた。さらに私は、転校生、それから避難者のその背景に、もっと深刻な現実を見ることになった。それは、いじめや差別を受けたことのある人のコメントだ。そのコメントの中には、あからさまな言葉の嫌がらせを受けたことや、原発事故による賠償金をねらった多額の金銭の要求を受けたことがあった。まるで避難者を放射能扱いしているような様子も

一文一文から受け取れた。私は読んでいるだけで胸が痛くなり、この現実から逃げたくなくてしまった。しかし、こんな弱気なままだと今の世の中と同じになっってしまう。何の解決にもならない。もう一度自分を奮い起こした。

なぜ、いじめが起こるのか。考えているとある考えにいきついた。いじめの理由とは、大人が現実を理解していないことにあるのではないか。例えば、メディアにおいて避難者に対する差別発言が見られたり、放射能に対する無知や不安から農作物を忌避する現象などが起こったりした。すると、健康を害する放射能の危険性が強調され、人だけでなく、福島の野菜、米までもが批判を浴び、市場に出回る影すら見えなくなる被害が及んだ。

こうした「誤認識」の情報が飛び交い、世間が騒ぎ立て、この情報を真に受ける人々も多々存在してしまう。だからこの悲しい現実があるのだと思う。この悪循環から抜け出すために、「避難者は原発事故の被害者」という言葉に共感した私自身も、原発事故のよき理解者の一人とならなければならぬ。また、この認識を社会に広めていく必要があると思う。そして、この「原発事故避難先

いじめ」の問題については長い年月をかけてでも、あらゆる世代の人々が、解決に向けて行動を示していかななくてはならないと思う。

今、私がすぐに行動できることはボランティアだ。今までの経験で培ったコミュニケーション力を生かし、人の気持ちを温かく受け入れることのできる心を今以上に磨いていきたい。こう誓った今、あのととき転校生と一緒に笑い合った瞬間が、まぶしいくらいに輝いて私の頭の中に浮かんだ。